

山東方言における既婚娘、娘婿、孫に対する伝統的な呼称について

Regarding Special Ways Married Women Refer to their Spouses and Children
in Traditional Shandong Dialect

馬 鳳 如
Fengru Ma
李 雪 雲
Xueyun Li

サマリー

近30年来、随着中国普通话推广力度的不断加大，加上农村城市化、城市国际化进程的加快，中国各地的方言都受到了很大影响和冲击。回首30年，山东方言的百花园中，一些极具特色的表现形式也已经或正在消失，它们正在或即将被新的成员所替代。笔者从抢救方言的目的出发，从方言学、社会文化学的角度对使用了千百年、目前即将消失的对出嫁女、女婿及外孙等的传统称谓这一齐鲁文化中极具特点的方言文化现象加以具体分析，希望能引起人们对山东方言文化研究的重视。值得说明的是，这类称谓的通行区域，集中在山东省的西部、南部地区，即济宁、菏泽、临沂、聊城以及泰安等地市。除此之外，还包括江苏省北部、河南省北部和安徽省北部等地的中原官话区域。

長い間、山東省南西部地区方言（李栄は「中原官話区」、錢曾怡は「山東方言西魯区」と呼んだ）に対する調査のなかで、孔孟の故郷を中心とした儒教文化の伝統豊かなこの地域における興味深い言語現象をしばしば目にした。他地域の人間には理解できないような言い方でも、細かく吟味するとそれぞれには納得できる理由がある。たとえば兒化音変の語彙には、普通話と一致する「小李」と「小李儿」の対応があるだけでなく、普通話とは一致しない「老李」と「老李儿」の対応も見られる。周知のように、中国語共通語の普通話及び北方方言における兒化音変で表されるものは、小さく軽いものや話者が好ましく感じているものであるが、「老李儿」「老王儿」などはこれとは全く異なる。更に不可解なのは「老李儿」が示す人物が必ずしも「李」という姓ではないことである（「老王儿」「老刘儿」「老孙儿」も同様である）。ほかには、普通話の「老李」は成年男女どちらにも使え、「老李家」は多くの場合、女性を、つまり老李の妻を指すが、方言の「老李家」は、これとは反対に既婚男性、つまり「李」という姓の婿を指す。このような特別な意味を持つ兒化はほかの方言にはほとんど見られない。そのほかにも多くの興味深い現象が見られる。たとえば、「李姐」と「李姐姐」は、どちらも女性をさすが、前者は必ず李という姓であるが、後者は必ずしも李という姓ではない。前者は未婚、既婚を問わず用いられるが、後者は必ず既婚者である。ほかにも「大姐」が大きくなく、「小姐」が小さくないのもきわめて特徴的だと言える。当地以外人間にとっては大きな謎となり、訳が分からなくなってしまう。

これらの方言の謎を解くには、これらと関連する社会文化的な背景を理解する必要がある。総じて言えば、上述した言語現象はほとんどが当地の女性の婚姻と関連があり、長い年月をかけて形成された既婚女性、女婿及び彼らの子供に対する一連の呼称系統に含まれる。ただ、近年中国の改革開放の深化、都市化の加速に伴い、当地と外部の接触、往来はますます頻繁になり、中国語の共通語である普通話の普及が進んだため、伝統的な呼称を用いる人も地域も大幅に減少した。今日、中小以上の都市では、60代以下の人ほとんど使われなくなり、たまに高齢者が使うのを耳にするくらいである。ただ、小さな县城や村鎮、とりわけ辺鄙な所に位置する村鎮ではこの千年来の旧俗が生き続けている。筆者の基本的調査では、この呼称は、山東省の西部、南部地区のほか、江蘇省北部、河南省北部、安徽省北部の広い中原官話地域でも使われている。資料に限りがあるので、本文では主に山東方言の例を用い、既婚女性、女婿、外甥を対照し、既婚女性の実家を呼称する環境として説明分析を進める。

1. 女性は嫁ぐと名を失う

旧時代、女性の名前の使用期間はとても短く、結婚後は使われることがなかった。いったん嫁いでしまうと女性の名前は影も形もなくなり、話題となることもなかった。結婚後の名前については多くの場合、「王李氏」「趙劉氏」のような単純な姓氏の組合せが思い起こされるが、山東方言ではこれらにとどまることはなかった。嫁ぎ先では上のように呼称するが、実家に帰ったら「王李氏」「趙劉氏」のような呼称は絶対に使えられず、特有な名義で呼称される。

結婚後、実家に帰り、もう一度少女時代の思い出に浸ろうとしても、女性は、生まれ育った実家の、よく知った、そして深く愛してくれた家族が変わってしまっていることに気づいてしまう。もう結婚前の名前では呼ばれることはなく、新たに「老X儿（“X”は夫の姓を示し、下同）」と呼ばれるようになり、「客」或いは「親戚」として接せられるようになる。俗諺に言う「嫁いだ娘は、撒いた水」となる。

実家の人間が嫁いだ娘をどう呼ぶかは、話者の世代、長幼による。

1-1 目上の者からの呼称

実の親、祖父母、伯父母など（準親族を含む）は「老X儿」（“老”の字に見化した夫の姓を加える）と呼ぶ。呼びかける場合（面称）、その場にいる場合（他称）、その場にはいない場合（背称）のいずれにおいても用いられる。

老张儿 老李儿 老刘儿 老范儿 老孙儿 老朱儿

这不是俺老张儿啊，你咋来了？（面称） 娘よ、なぜ来たのかい？

你不认得啦？这是咱老李儿。（他称） 分かりませんか？これは私たちの娘だよ。

俺老李儿过得可不咋儿。（背称） 娘の所はなかなかの暮らし向きだ。

姉妹の夫が同姓の場合には、前に「大」「小」或いは「大」「二」「小」等の順序を表す語を加える。

大老李儿 小老李儿 （姉妹二人の夫がどちらも「李」の場合）

大老高儿 二老高儿 小老高儿 （姉妹三人の夫がどちらも「高」の場合）

この形式は面称、背称、他称のいずれの場合にも用いられる。

1-2 同世代の年長者からの呼称

同世代の年長者は、一般的に、女性の実家の兄と兄嫁（準親族を含む）という。彼らの呼称は大抵「老X儿」と「妹妹」2種ある。但し、嫁ぐ前に使われていた名前（幼名と正式の名前）は一切使えない。準親族（隣近所）関係の兄と兄嫁が面称（呼びかけ）する場合にはやや違い、「老X儿」のほかに「妹妹」の前に夫の姓を付けて「X妹妹」（夫の姓の見化は不可）と呼ぶことができる。次の比較を見てみよう。

実の兄と兄嫁： 老王儿／妹妹 老林儿／二妹妹 （面称、背称、他称）

準親族の兄嫁： 老王儿／王妹妹 老林儿／林妹妹 （面称、他称）

老王儿 老林儿 （背称）

1-3 同世代の年少者からの呼称

既婚の姉に対し、実の弟、妹は、面称、背称に関わらず、原則的に嫁ぐ前と同様で、「姐姐」「大姐姐」「二姐姐」のように呼ぶ。ただし準親族関係の弟、妹が面称（呼びかけ）する場合には、よく「姐姐」の前に夫の姓が加えられ、「X姐姐」（夫の姓の見化は不可）と呼ぶことが多い。背称（本人のいないところで話題にする場合）は、必ずしも強い親しみが込められるわけではない。

実の弟妹： 姐姐 大姐姐 二姐姐 （面称、背称、他称）

準親族の弟妹： 邓姐姐 王姐姐 刘姐姐 （面称、他称）

小福家姐姐（小福のお姉さん） 大黑家妹妹（大黒の妹さん） （背称）

1-4 下の世代の者からの呼称

面称であろうと背称であろうと、原則的に嫁ぐ前と同様に、直接「姑」（おばさん）、「姑奶奶」（おばあさん）或いは「大姑」（一番上のおばさん）「二姑」（二番目のおばさん）と呼ぶ。しかし、準親族関係の下の世代の者が面称（呼びかけ）する場合には、よく夫の姓が加えられる。この場合、夫の姓の見化はできない。また、背称には、

必ずしも強い親しみが込められるわけではない。例えば：

王姑娘 (王おばさん) 楊姑奶奶 (楊おばあさん) (面称、他称)

狗剩兒家姑娘 (狗剩兒のおばさん) 石頭兒家姑奶奶 (石頭兒のおばあさん) (背称)

話者と対象間の親疎が呼称にもはっきりと反映される。

①面称と背称が一致するのは実の親族で、一致しないのが準親族である。

②面称 (よびかけ) のとき、「姐姐」「妹妹」「姑娘」「姑奶奶」と呼ぶのが実の親族で、夫の姓を加えるのは準親族である。

③「X姐姐」と「X姐」には違いがあり、前者は実家の準親族が用い、後者は職場の女性同僚が使う。

ほかに、「老X兒」は自称にも用いられる。次の会話文を見て分かる。

甲: 大娘, 你怪好不? (おばさん, お元気ですか?)

乙: 谁啊? 我这眼不中用了。 (誰だい, 目が見えなくなっちゃったんだ。)

甲: 我是老李儿。(自称) (私 (老李儿) ですよ。)

乙: 哎哟, 俺老李儿来啦。(面称) これはこれは、あなた (老李儿) いらっしゃい。

1-5 改称について

方言に見られる姓の改称についての特殊な例をしてみる。夫の姓が「畢」の女性は、ほかの姓のように「老X兒」「X姐姐」「X妹妹」「X姑奶奶」と、実家で呼ばれない。面称でも背称でも「舜」の字で置き換えられる。

* 老毕儿 * 毕姐姐 * 毕姑娘 * 毕姑奶奶

老舜儿 舜姐姐 舜姑娘 舜姑奶奶

これは方言の「毕」(畢)の字が女陰を表される「尻」の字と、音が同じく[pɿ213] (= 遍)なので、聴いた感じが「舜 (良くない、品がない)」と思われる。それならばいっそのこと「舜」[nau213]に改めてしまえということになったようだ。本人以外が言うだけでなく、「毕」という姓の人も時に自称として用いる。「嫁ぎ先は舜という姓で、家は舜村にある」というふうに使われる。このほか、「筆」の字も「尻」の字と同音なので、毛筆、万年筆の「筆」の字もみな[pei213] (= 北)と読まれる。(銭曾怡 (2000) 主编『金郷方言志』を参照)

2. 婿 (娘の夫) に対しては名前を呼ばない

古くから、婿が実家にやってきたときには、家の者も村の者も婿の名前は呼ばない。親族、準親族で立場の違いにより、面称として、「您姐夫」「他姐夫」「您姑父」「他姑父」「姐夫 (姉の夫)」「妹夫」「姑父 (父の姉妹の夫)」「姑爷爷 (父の姑父)」「哥 (兄)」「兄弟」が用いられるほか、他称、背称として「老X儿家」が使われ、既婚娘の「老X兒」の夫を意味する。これらの呼称には大きな繋がりがある。①本来「老X」は夫の家を指し、Xには夫の姓が入った。②「老X」は儿化して「老X兒」となり、嫁いだ娘の呼称となった。③「老X兒」の後ろに「家」をつけ、「老X儿家」とし、嫁いだ娘の夫の呼称とした。この呼称は一般に面称 (呼びかけ) には用いられず、通常他称や背称に用いられる。具体的には次の3種に分類できる。

2-1 岳父や岳母等からの呼称

妻の父母等上の世代の者 (準親族を含む) は娘の夫に背称、他称の場合にはほとんど「老X儿家」と謂う。現地方言で「X家」の「家」は夫、妻、家族の意味をそれぞれ表せるが、ここでは夫しか表せない。また、面称の場合には「您姐夫」「他姐夫」などを用いる。

这是俺老李儿家, 才打东北回来。(他称) (これがうちの婿 (老李儿家) で東北から帰ってきたばかりです。)

听说老高儿家手艺不错。(背称) (老高儿の旦那はすごい技の持ち主らしい。)

面称に使われるのは、年配の人を激怒させたときだけである。

老李儿家, 别给脸不要脸! (面称) (おまえ、顔を立ててやろうとしたのに。)

2-2 同世代の年長者からの呼称

妻と同世代の年長者等が使う呼称は比較的複雑で、背称の時には一般に「老X儿家」を用いるが、他称の時には「俺妹妹家」を用いることが多く、面称の時には「兄弟」(時に「妹夫」)を使う。

我赶集碰见老李儿家啦。(背称) 市場で老李儿のだんなにあった。
 这是俺三妹妹家, 没外人。(他称) これは3番目の妹のだんな。他人じゃない。
 兄弟, 有个事儿得麻烦你。(面称) 弟よ、お願いがあるの。

2-3 弟、妹や下の世代の者が使う呼称

此の種類呼称は比較的統一されており、面称、背称、他称とも「姐夫」「姑父」などと言えるだけで、「老X儿家」とは言えない。目上の人を尊重するからである。

以上から、女婿は岳父母宅においては、高低貴賤の別なく、「老X儿家」ということばに括られてしまい、「婿」という平等の地位となることが分かる。「老X儿家」には、姻族がもつ軽視できない社会的な力や地位も表されている。

陳建民(1999)は『中国語言、中国社会』において社会制度が呼称を制約することについて論じているが、そのなかで「現段階においてコミュニケーションで用いられる呼称としては相互に呼び合う「同志」のほか、多くは相手の年齢、性別、職業、職務や、本人との繋がりに基づいたものが使われる。相手の年齢や地位に基づいて「小X」「老X」「大X」「X老」と呼ぶことができる」と指摘している。普通話の影響で、方言の中でも最近「老X」「(小)X儿」という二つの呼称が用いられるようになった。前者は中高年に用いられ、後者は青少年(「小」の字はしばしば省略される)に用いられる。このため、方言には次のような構造のよく似た三種の呼称が存在する。

老X儿 —— 老X儿家
 老X —— 老X家
 小X儿 —— 小X儿家

「老+夫姓+儿」は実家の一世代上か、同世代の年長者が嫁いでいった娘に使う呼称である。この呼称を聴くと、次の二点を理解できる。①女性の身分。この女性は既婚者で、夫の姓は～である。②発話者と女性との関係。女性の実家(同じ村の準親族の者を含む)の上の世代の人間か同世代の年長者である。

嫁いだ女性の準親族の兄嫁、弟、妹や下の世代の人間が、嫁いだ女性に対して使う呼称も特徴を持っている。彼らが呼称で使っているのは[夫姓+関係詞]という形である。たとえば、兄嫁なら「王妹妹(王妹さん)」、弟や妹なら「李姐姐(李ねえさん)」、甥や姪なら「马姑娘(馬おばさん)」、姪孫なら「刘姑奶奶(劉おばあさん)」と呼ぶ。

類 型	意 味	例	使 用 制 限
老X儿	夫の姓がXの女性	老李儿 老高儿 老刘儿	実家の上の世代か同世代の年長者に限り用いられる。面称、背称、他称に用いられる。
老X儿家	夫の姓がXの女性の夫	老李儿家 老高儿家 老刘儿家	実家の上の世代が用いられる。背称、他称に限られる。
老X	Xという姓の中高年	老李 老高 老刘	制限はない
老X家	Xという姓の中高年の配偶者(多くは妻を指す)	老李家 老高家 老刘家	背称、他称
小X儿	Xという姓の青少年	小李儿 小高儿 小刘儿	制限がない
小X儿家	Xという姓の青少年の配偶者(多くは妻を指す)	小李儿家 小高儿家 小刘儿家	背称、他称

3. 外孫（娘の息子）は名前を持たない

母の実家では、おじいさんもおばあさんもおじさんもおばさん（準親族を含めて）、甥や姪、孫や孫娘の名前には無頓着であった。幼名、正式名にかかわらず、彼らの名前を呼ぶことはないからである。少なくとも彼らが大人になるまで（結婚するまで）は、母の実家の大人たちは二種類の呼称のみで彼らを呼んだ。男女によりそれぞれ二つの呼び方があった。

3-1 外甥、外孫の共用の呼称は「X孩儿」或は「X娃儿」

〔姓+「孩儿」／「娃儿」〕： 王孩儿／王娃儿 刘孩儿／刘娃儿

〔序数+姓+「孩儿」／「娃儿」〕： 大王孩儿／王娃儿 二李孩儿／娃儿

三刘孩儿／娃儿 小赵（趙）孩儿／娃儿

この呼称では中の順序を変えることができない。例えば「二李娃儿」を「李二娃儿」、「小赵孩儿」を「赵小孩儿」とすることはできない。方言には「李二孩儿」のような言い方もあるが、呼びかける人と呼びかけられる人の親族関係を表してはいない。次のa～cを比較してみよう。

- a) 这是二李孩儿，俺外甥。 私の甥です。
 b) 这是二李孩儿，俺庄上的外甥。 私の村の甥です。
 c) 这是李二孩儿，俺那庄上的。 私の村に住んでいます。

a、bの対象は外甥で、aは話に出てくる対象の実家の人間で、bは同じ村の人間である。この二つの文には婚姻関係がはっきり出ているが、cにはこのような意味は含まれない。また「X娃儿」は「X孩儿」よりも古くから用いられていると見られる。上の例における「大、二、三、小」は既婚娘の順位を表すこともある。

3-2 外姪、外孫娘の共用名は「X大儿」「X大姐」「X妮儿」

外甥、外孫と同様に、外姪、外孫娘たちが母の実家では共用の名前もあり、主に次の3種使われた。

〔姓+大儿〕：王大儿 杜大儿 刘大儿 （「大儿」は強く読む）

〔姓+序数+姐〕：王大姐 杜二姐 刘三姐 （「大、二、三」は強く読み、「姐」は軽く読む）

〔(序数)+姓+妮儿〕：王妮儿 大王妮儿 二王妮儿 （読みの強弱ははっきりしない）

上述の呼称は面称、他称、背称のいずれにも用いられる。但し対象が年齢を重ねると、例えば成人し、結婚し、子どもができた後も、「X娃儿」、「X孩儿」、或いは「X大儿」、「X妮儿」と面称（呼びかけ）するのは適当ではなくなる。しかし背称と他称は変わることはない。

听说二王孩儿都娶媳妇了。（背称）

王さんの2番上の子はもう結婚したそうだ。

外甥、外孫は、どれだけ年をとっても、偉くなっても、母の実家や地域の上の世代の人の前では普通、「X娃儿」、「X孩儿」を使い続け、正式の名前は用いない。また名前に官職をつけることはまずない。

大舅，不记得我啦，我是王孩儿。 おじさん、忘れてしまったの、王の子です。

*大舅，不记得我啦，我是王福堂。（正式名）

*大舅，不记得我啦，我是王县长。（官職）

4. 方言呼称の違い

4-1 「老X儿」と「老X」

①対象の立場が違い

前者「老X儿」には、次の条件が必要である。第一に女性、第二に既婚、第三に夫の姓はX、本人の姓や年齢とは関係がない。後者「老X」は、普通、次の2つの条件を備えている。第一に姓はX、第二に中高年。性別や既婚、未婚は問わない。

②呼ぶ人と対象の関係が違い

前者は限定性が強く、呼ぶ人は次の2つの条件を備える。第一に対象の実家の人間である、第二に対象の上の世代か同世代でも年長者である（準親族を含む）。呼ぶ人と対象の関係で言えば、たいへん親しい関係にあると言える。

後者の適用範囲は広く、同僚同士間で、知識階級の一部の夫婦間で、また村人たちがやって来た幹部に対して「老X」と呼ぶことができる。部下、弟子、下の世代も用いることはできるが、通常、呼びかけを行うときは、姓の後ろに「哥（お兄さん）」、「姐（お姉さん）」、「师傅（せんせい）」、「叔叔（おじさん）」などの親族呼称などをつけたほうが礼儀をわきまえた表現になる。

4-2 「老X儿家」と「老X家」

①対象の性別が違い

前者「老X儿家」は「老X儿」の夫を表し、実家や地域で婿のことを指すので、男性である。後者「老X家」は異なる。もし「老X」の立場、性別、既婚、未婚を問わなければ、「老X家」は「老X家の家族」を指し、多くの場合は妻を表す。つまり「老X家」は「老X的家里人」の省略形式と言える。「女老X」の夫のことを表すには、「老X家男的」、「老X家老头儿」、「老X家那口子」等の言い方がある。

②呼ぶ人と対象の関係が違い

前者の限定性は強く、姻族関係者だけが使用できる。岳父母の家の上の世代の人間（地域を含む）が使う。後者「老X家」は新しい呼び方で幅広く使われる。多くは他称、背称として用いられ、面称として用いられることは少ない。

4-3 山東方言の「林妹妹」と『紅樓夢』にみられる「林妹妹」

『紅樓夢』の「天上掉下个林妹妹（天から林妹妹がひとり落ちてきた）」が示している「林妹妹」は姓が林で、名が黛玉の女性を指し、山東方言の「X妹妹」とは異なる。

①対象の立場が違い

どちらも女性だが、山東方言の「林妹妹」は夫の姓が林で、『紅樓夢』では本人の姓が林である。そのほか、前者は既婚者であるのに対し、後者は未婚である。

②呼ぶ人の立場が違い

前者は多くの制限を受け、この呼称を使えるのは実家の準親族（隣近所）関係にある兄嫁だけである。後者は幅広く用いられ、同世代の年長者ならみな使われる。

4-4 方言の「X大姐」と共通語の「X大姐」

陳建民（1999）は「伝統的な大姐は現在も使われ、邓大姐（鄧穎超）、雷大姐（雷潔琮）のように尊敬と親しみの意味を持つ。ここ二三十年來、大姐は面識のない女性（ほぼ30歳以上）に対する一般的な呼称となり、小姐と使い分けが行われている」と指摘している。山東方言に伝統的な「X大姐」と現代の「X大姐」の違いは以下の3点がある。

①発音上の重軽構造が違い

現代の「X大姐」は「中-軽-重」形式で、最後の「姐」の字は少し重く読まれる。これに対し、方言に見られる伝統的「X大姐」は「中-重-軽」形式で、中間で順序を示す「大」の字が重く読まれる。このため、[tu312/31ta312/31tié55]杜大姐 ≠ [tu312/31ta312/42tié]杜大姐となる。

②意味が違い

方言の「X大姐」は外姪或いは外孫娘を指し、現代の「X大姐」は「小姐」と並んで使われ、女性への尊称となっている。現在の方言では、この2つの語がどちらも使われるが、混乱が起きることはない。私たちは異なる語彙として2つを使い分けている。両者の形は同じだが、発音の強弱、語義が異なっている。

③呼ぶ人と対象が違い

後者を使えるのは母方の実家の上の世代の人間に限られ、対象と親しい関係にある人物である。前者の範囲は広く、同僚、地域住民同士でも使える。後者は伝統的で、前者はのちに使われるようになった。

王大姐都两岁了。 （外孫娘/外姪（王姓）はもう2歳だ。）

王大姐是俺车间主任。 （王さんは職場の主任だ。）

4-5 「X大姐」と「X小姐」

①「大姐」は年長ではなく、「小姐」は幼少でもない。

「X大姐」は外姪、外孫娘に対する呼称で、「小姐」は尊称である。したがって年齢的には、大姐は必ずしも年長とは限らず、小姐が幼少とも限らない。外姪、外孫娘に対して「X大姐」をいつまで続けて呼称されるのかというと、大抵結婚するまでになる。その後、彼女の母親のように「老X」と呼ばれる。

②呼ぶ人と対象の関係が違い

「X大姐」と呼べるのは母方の祖父母、おじ、おばなど（地域の準親族を含む）だけで、「小姐」はこれらの人を除いたほとんどの人が使うことができる。

③呼称される場合の制約

「X大姐」は母方の実家およびその村の中で使われるが、「X小姐」は広い範囲で使われる。「小姐」もいったん母方の実家に入ってしまうと、例外なく「大姐」と呼ばれるようになる。

④「大姐」「二姐」と「小姐」の修飾語とストレス（重読）

単独で使う場合：	小姐	——	*大姐/*二姐
姓を加えて：	王小姐	——	王大姐/王二姐
名前を加えて：	美玲小姐	——	*美玲大姐/*美玲二姐
姓名を加えて：	王美玲小姐	——	*王美玲大姐/王美玲二姐
姓・順位を加えて：	赵四小姐	——	*赵四大姐/赵四二姐
指示代名詞を加えて：	这位小姐	——	*这位大姐/这位二姐
その他の修飾語を加えて：	我家小姐	——	*我家大姐/我家二姐

方言の「大姐」「二姐」は、単独に使えなく、また苗字しか加えられないが、「小姐」のほうは幅広く、単独の場合でも、色んな修飾語を加えた場合でも使えられる。

発音の面では、ストレスの違いが注目される。「X大姐」、「X二姐」のような形の場合、順序を示す「大」「二」「三」を強く読み、姓については、強くは読まず、後ろの「姐」は軽声で読む。これに対し、「X小姐」では、前の姓を強く読み、「小姐」2字はそれぞれ中・軽の強さで読む。このように両者の発音の強弱構造は明らかに違う。

王大姐	王二姐	王三姐	(中-重-軽)
王小姐	李小姐	赵小姐	(重-中-軽)

陳建民・陳章太（1991）は「中国の伝統文化は人間関係を重視している。人と人は、関係のネットワークをつくり、一人ひとりには生まれると、ネットワークの中のどこかの点に位置づけられ、何が話せて、何が話せないか、どんな話に対してどんな反応が起きるかは、社会的な制約を強く受けてしまう。立場が変われば、言語活動もそれまでのものとは変わってくる」（社会言語学研究室編『語言・社会・文化』p17. 18）と指摘している。

ほかには、「X姐姐」と「X大姐」も異なる。前者は嫁いでいった女性に対して実家や地域の人が使い、後者は外姪、外孫娘に対して使う。前者は母であり、後者は娘である。

这是俺王姐姐家的王大姐。这是王姐姐家的大女儿（これは王姉さんの長女です。）

高長江（1994）は『郷情・郷俗・郷音—中国郷村文化語言の研究』で「郷村社会では、呼称はたいへん重要である。人々のつながりが呼称を基礎に成り立っているからである。村人同士がどう呼び合うかでお互いの関係が決まり、何を与えあうかが決まってしまう」（p121）と指摘している。あわせて、「親族関係のネットワークの中で、それぞれの成員は親族集団の中のどの位置にあるかで呼称が与えられ、また、それぞれの呼称の境界はたいへんはつきりとしている」（p122）とも述べている。注意しなければならない点として、ここ何十年かで民族の共通語が大きく広められたので、普通話の呼称が伝統的な呼称と少なからぬ衝突を生んだということがあげられる。現代の方言における呼称は、伝統的なものだけでなく、現代的なものもあり、また方言が残っているものがあれば他の方言や共通語と一致してしまったものもある。混ざり合ってしまったために錯綜し、区分も難しくなっている。陳松岑は『語言變異研究』のなかで「人類が小農自然經濟から現代的大規模工業生産に変化していく過程で、もともとそれぞれの地域のメンバー同士のコミュニケーション手段であった方言が、徐々に民族全体の共通語にとってかわられてしまった」と指摘している。近い将来、従来の儒教的色彩の濃い方言表現は徐々に姿が消されるが、貴重な歴史文献として必ず保存されることになるだろう。

注：嫁ぎ先での呼称について

結婚後、女性の名前は、常に夫、子供、家族等と関連づけて呼ばれるようになる。山東方言に見られる特色は北方方言区の大部分の地域でも見られる。ここでは女性の呼称を5種にまとめた。

①夫の関連による呼称

夫の名前の後ろに「家（家里／媳妇）」を加える。

[X家]：石头儿家 狗二家 振华家 张振华家

[X家]の「家」は轻声で読み、「家里」の「家」はもとの声調（三声）で読む。夫の名前は普通幼名（石头儿）或いは綽名（狗二）が使われる。後ろ2つのように正式な名前を使うこともあるが、これは中高年に限られ、礼儀として用いられる。

上述した呼称の多くは背称（その場にはいない場合）や他称（その場において話題になる場合）に用いられ、面称（呼びかける場合）に用いられることは少ない。

②夫の順番による呼称

順番とは夫が兄弟（姉妹は除く）のなかで何番目であるかを指す。「份儿」の読みは、普通は四声で読まれるが、この場合、三声で読む。また、「家」は轻声で読む。

[X份儿的]：大份儿的 二份儿的

[X份儿的家]：大份儿的家 二份儿的家

この呼称は舅、姑だけが使い、背称や他称に使われ、叱責、口げんか以外の時には面称として用いられることはまれである。

③こどもによる呼称

こどもや孫が生まれると、女性の呼称もこどもや孫の名前（一般的には幼名）によって呼ばれるようになる。

[X家娘]：二牛家娘 石头家娘 大白脸家娘

「家」は轻声で読む。使用範囲は広く、面称、背称、他称のいずれでも用いられる。

④夫の弟や妹による呼称

夫の弟や妹の名前の後ろに「家嫂（兄嫁）」のを加えるのを特徴とし、「家」は轻声で読む。

[X家嫂]：石头家嫂 哑巴家嫂 花妮家嫂

⑤家族による呼称

夫の姓が前で、実家の姓があとにし、後ろに「氏」の字をつけて「XX氏」という女性の名前となる。これは戸籍に残される法的効力のある名前であった。

参考文献

錢曾怡主編・馬鳳如著（2000）『金郷方言誌』 齊魯書社

馬鳳如（2004）『山東方言の調査と研究』 白帝社

羅福騰（1998）『漢語方言と民間文化新視察』 新華文化事業（新）有限公司

李 申（1985）『徐州方言誌』 語文出版社

陳建民（1999）『中国語言 中国社会』 広東教育出版社

中国語言文字応用研究所社会語言学研究室編（1991）『語言・社会・文化』 語文出版社

黄濤著（2002）『語言民俗と中国文化』 人民出版社

曲彦斌（1992）『中国民俗言語学』 上海文芸出版社

高長江（1994）『郷情・郷俗・郷音——中国郷村文化語言の研究』 吉林大学出版社